



会長 古賀 健一郎  
副会長 古田 和彦  
書記 古賀 健一郎  
会計 大高 治  
直前会長 古田 和彦

国際会長 (IP) Kim Sang-chaе (Korea)

Y's Men with the World” 「世界とともにワイズメン」

アジア太平洋地域会長 (AP) 大野 勉 (神戸ポート)

“Make a difference beyond the 100th”

「100年を超えて変革しよう」

東日本区理事 (RD) 大久保 知宏 (宇都宮)

「私たちは次の世代のために何ができるか？」

“Think for the next generation”

湘南・沖縄部部長 (DG) 若木 一美 (横浜とつか)

「咲かそう 人の輪～明るく・楽しく・元気よく～」

横浜クラブ会長 (CP) 古賀 健一郎

「今こそ『すべての人を一つにしてください』(ヨハネ 17 章)を覚え、平和への行動を！」

“Now, keeping 『All be one with each other』(John 17), Act for peace!”

監事 松島 美一  
ブリテン 伊藤 誠彦  
担当主事 青木 英幸

## <今月の聖句>

伊藤 比朗美

今日生えていて、明日には炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことではないか。信仰の薄い者たちよ。だから、『何お食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』といって、思い悩むな。

(マタイによる福音書 6章 30～31 節)

## 今月のひとこと

### 「ソリューション」

佐竹 博



新しい年を迎えました、皆様、本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

総主事マンスリー1月号にも書いたのですが、横浜 YMCA 年表に、100 年前 1922 年には、第 2 回全国バレーボール選手権優勝 (5.21) の記載しかありません。翌年は関東大震災発災、現代に続く災害支援の姿が多く記録されています。

さて、日本にバレーボールが紹介されたのは 1913 年に YMCA 体育主事のブラウン氏によってもたらされたと伝わっています。バレーボールの起源は「当時のバスケットボールに向かないといわれた子ども、女性、高齢者も気軽に楽しめる室

内スポーツとして」でした。

そもそもバスケットボールは、冬が寒い地域でも運動の機会を得ることができるスポーツとして開発されました。フットボールのように広いスペースをとることができない体育館で走り回ることによって運動量が得られること、ボールを投げたり蹴ったりすることは狭い室内、壁に必ず当たることを考えると不向きでした。ゴールを高いところにしたバスケットボールは、山なりの軌道でないとゴールにならない方法として狭い室内で、且つボールの勢いを必要としない方法として考えられました。

やがてバスケットボールが普及するうちに、走り回ること、身体接触があることが年齢や体力差に大きく影響することから、これらの課題を解決するスポーツの開発が行われ、バレーボールが生まれました。

コートはチームに分かれ接触がなく、両コートにボールが行き来する、両チームを分ける仕切り(ネット)を高くして、山なりでないと越えられないようにしました。これでパワーやスピードの差を解決して楽しめるようになる課題解決型の開発となりました。equity の考え方を 100 年以上前に見ることができますし、一人ひとりを大切にす YMCA のミッションの具現化を見ることができます。

さて、冒頭の全国排球(バレーボール)選手権ですが、前年開催の第 1 回優勝は神戸高校(横浜 YMCA 100 年史の記載ですが、当時は第一神戸中学校かと思われます)に敗れ準優勝。翌年第 2 回で優勝という歴史です。バスケットボールは環境適合の考え方、バレーボールは参加者適合の考え方ととらえると、障壁を積極的に解決する取り組みとインクルージョンの考え方を意識したソリューションと見ることができます。

今の時代もダイバシティとインクルージョンの課題に常に向き合っています。特に YMCA ではそのことに向き合い、内

## <2021年12月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F
12名	メン 7名 メネット 0名 コメット 0名 ビジター 0名 ゲスト 0名 合計 7名	67 % (メーキャップ 1名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円

## <1月の行事予定>

### IBC/DBC

日	曜	時間	行事内容	場所
13	木	18:30	横浜クラブ第一例会	Zoom
27	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom

面的に矛盾や葛藤を抱えながらも常に解決方法を模索し、その時の最善を選択して事業を行っています。平等と公平、一律と都度、一斉と個別、、様々な状況の中で何をすべきか考えながら歩んでいます。

バスケットボールが解決した課題（狭い空間で運動を確保する、ボールの勢いを減らしてゴールさせる）、バレーボールが解決した課題（身体接触を減らし体格差の影響を減らす、ボールの勢いを減らしてプレーする）を今に活かし、具体的な課題解決と公平な参画状態を作り出していけるように、これからも私たちは歴史に学び未来を創っていきたく思います。

もし、両球技を開発した先輩スタッフが、現代のアリウープのダンクシュートや、ジャンプサーブを受けたレシーブからのバックアタックなどを見たら、びっくりするでしょう。同時にどんなソリューションを考えるか、それが現代の私たちの宿題かもしれません。

## 「横浜YMCAクリスマス礼拝報告」

古賀 健一郎

横浜 YMCA のクリスマス礼拝は、12月18日(土)15時から、会場参加、YouTube ライブ配信にて、日本キリスト教団紅葉坂教会でもたれた。パイプオルガンの美しく力強い響きとともに、横浜 YMCA 混声合唱団の美しい賛美が捧げられた。さらに横浜 YMCA の学童クラブや保育園の子どもたちによる讃美の手話動画も映し出され、クリスマスの喜びが見事に表現され、感動的な礼拝となった。

横浜 YMCA 常議員で紅葉坂教会牧師の荒井仁先生から、



教会にも参加できたクリスマス礼拝でした

『星に導かれて』と題してクリスマスメッセージをいただいた。

「聖書に記されている占星術の学者たちは、新しいユダヤ人の王さまがどこかにいるのかわからなかった。しかし星に導かれてイエスに出会うことが出来た。

コロナの影響で私たちの生活が大きく変わり、これからの歩みの中で、先が見えないので不安になることもあるかもしれない。それでも皆様を導いてくれる星が必ずどこかにあり、その歩みの中に皆様を助けてくれる方が必ず現れてくる。そこに、救い主イエスがおられる。

それだけでなく新しい出会いは皆様を生かす機会にもなる。占星術の学者たちは“黄金、乳香、没薬”をイエスに捧げた。

皆様にはこれまで学んでこられた知識や能力などがある。それらをこれから出会う人たちの為に使う機会も与えられる。時には赤ちゃんのイエスのように、何の力もなく皆様が手を差し伸べないと生きていけない人と出会いもあるであろう。それが自分に与えられているものの中で、最も高価で大切な物を捧げる機会となる。

迷うことや悩むことが多い歩みかもしれないが、星に導かれて、救い主イエス・キリストに出会い、生かされる人生を、このYMCAの中で送れるように願っている。

YMCAは『みつかる』『つながる』『よくなる』との言葉を大事にしている。どうかイエスとみつけ、また多くの人とつながり、お互いによくなることを目指す為に、星に導かれ一緒に歩みたいものです。」・・・と語られた。

当日の献金は、「横浜YMCA国際・地域協力募金」として用いることが伝えられ、その募金で支援を受ける感謝のメッセージを横浜YMCA国際事業委員会委員長の齋藤百合子さんから述べられた。

最後に工藤誠一理事長は、ご協力をいただいた紅葉坂教会の皆様、横浜YMCA関係者の皆様のお働きへの感謝のお言葉とともに、「クリスマスが全ての人の喜びと希望の出来事となることを願いたい。メリークリスマス！」と、と閉会のあいさつを述べられた。

コロナ危機で人とのつながりが希薄な中、横浜YMCAに関わる者が、教会やオンラインでつながり、心豊かにクリスマスをお祝いし、主のご降誕の希望の光に勇気づけられ、心新たに新しい年を迎えたいものです。

(横浜クラブ参加者) 青木英幸、秋元美晴、大高治、古賀健一郎、齋藤宙也、佐竹博、古田和彦(尚、当礼拝は横浜クラブ第一例会をも兼ねました)

## 「第92回Y-Y's協議会報告」

古田 和彦

12月7日(火)19:00~20:20、第92回Y-Y's協議会がハイブリッド方式で開催された。横浜中央YMCA9階チャペルに若木部長、板崎書記などが集まり、YMCA側も佐竹総主事は生麦からオンライン参加となった。総参加者は26名、そのうちリアル参加者は8名であった。筆者はリアルで参加した。今回の担当は鎌倉ワイズメンズクラブで、礼拝は三上淳担当主事がオンラインで、続いて、同クラブの池田会長がオンラインで司会・進行した。

まず、佐竹横浜YMCA総主事からクリスマスの喜びを共に

分かちたいとの挨拶。次いで、若木部長から部大会、チャリティーラン、各 Y のバザーなどそれぞれ工夫して行われたことへの感謝が述べられた。

次いで協議に入った。議題は一つだけ 1. 合同新年会について。ワイズ側では 11 月 27 日開催の部評議会で中止を決めたが、本日、YMCA 側もそれを追認し、1 月に予定の同会の中止を決定した。

続いて報告。YMCA から、①国際・チャリティーランについて、69 チームと個人 19 名が参加、374 万円の収入となったこと。②9/11-12 開催の東日本ユース・ボランティア・リーダーズ・フォーラム (YVLF) が横浜 YMCA の主管、オンラインで行われたこと、基調講演は横浜川和教会牧師の平良愛香牧師が行ったことなど、参加のリーダー 2 名によって報告された。③国際・地域協力募金が行われている、それぞれ工夫して進めているのでワイズメンにも協力してほしい。④12/18 クリスマス礼拝が紅葉坂教会で開催される。教会は人数制限とするがオンラインも同時開催するので参加してほしい、とのことであった。ワイズからは、各クラブの例会開催状況や行事予定などが報告された。筆者が特に感じた事項は、横浜つらみでは新入会者がいること、横浜とつかでは SDGs 活動としてリーダーと小田原のソーラー発電見学を行ったことであった。

次回 93 回は 2022 年 3 月 1 日 (火) 19:00~20:30 横浜とつかワイズの担当で開催することとし、散会した。

横浜クラブの参加者：リアルは青木、古田、オンラインは高、佐竹

## 「具体的な活動に参加」

秋元 美晴



私は 2021 年 5 月に伝統ある横浜ワイズメンズクラブに入れていただきました。その時点ではクリスチャンではありませんでしたし、女性会員はいないようでしたのに、みなさまがよく入会を認めてくださったと思います。あ

りがとうございました。

昨年は私も何もできませんでしたが、今年はいか具体的な活動に参加できたらと思っています。コロナ禍で制約があることは仕方がないと思いますが、2022 年はこれをやった!と思えるような何かをしたいと願っております。先だって熊本スピリットワイズメンズクラブの方とお話をする機会がありましたが、その帰途、横浜 YMCA 日本語学校と熊本 YMCA 日本語学院の留学生の相互の短期内地留学ができないものかと考えました。コロナ禍の留学生が思い出に残るような何かができないかと、あれこれ勝手に考えております。

## 「他力」

伊藤 誠彦



過去 10 年間のブリテンに投稿した自分の「新年の抱負」を見返した。ほぼ全部が「健康」と「終活」に関するものであった。健康管理に留意して長生きしたい、やがて訪れる人生の終末に当たっては、家族をはじめ他の人にできるだけ迷惑をかけた

くない、と、考えるのは当然のことではある。

しかし、これは自分の努力(「自力」)だけでは達成できないのではと考えるようになった。自力が遠く及ばない強い力(「他力」)が働いて、「物事はなるようにしかならない」と考えるからである。新型コロナウイルスが人智を超えて世界中で猛威を振るっているのを見て、特にそのように思う。

しかしこれは他力任せにしようということではない。他力によりもたらされる環境の下地を作り出すのは自分自身、即ち、自力であると考えからである。

## 「物忘れに逆らって」

大高 治



昨年の抱負は「体年齢 60 歳を目指して」でした。オムロンの体重計では晩秋から 61~62 歳が時々出るようになりましたが、大勢はなお 63~64 歳です。年央に陥った腰痛の回復が長引き体操不足が大きな要因です。この目標は今年も

継続です。

漢字の読み書き、言葉の忘れは最近目立ち、スマホの辞書活用が増えています。メモリーから消えている訳でなく、棚の奥に行ってしまった記憶は容易に呼鈴に反応しないのです。だが高齢者の運転免許更新に必須の認知症試験では、昨年初め



## 『新年の抱負特集』

## 「健康第一」

青木 英幸



先日、成人式を迎える学生たちにお祝いのカードにメッセージを書きました。

コロナ禍にあり、学内実習を実施せざるを得なかった状況に対して就職先の施設等から「コロナ世代」と言われている学生たちにとって、明るい未来が訪れることを一枚一枚記入しながら願いを込めました。また、日本に入学出来ずにいる留学生の方々に対しても早く日本に来られるようにと一言お祈りの中に加えております。

今年も学生一人ひとりに寄り添い支援をしていけるように、自分自身は「健康第一」で日々過ごせるようにしていきたいと思ひます

100点を取りました。学生時代の試験勉強のように予想問題集を活用し、手の指をタオルでマッサージして抹消神経を刺激、記憶力を高めた例を励みに、今年は忘却力減少を狙いたいと思います。

朝日デジタルなどのネットで良く目にする文字や「三体千字文」を使って筆ペンでの習字にチャレンジしようと思います。またも80の手習いです。

## 「週2日40分の運動」

押川 幸男



昨年の9月に職場でのストレスチェックがあり、今後のアドバイスとして「今回の調査時点では、問題はありませんでしたが、普段からストレスをためこまず、気分転換をはかるようにここがけることをお勧めいたします」とのこと。今年もシニアとしての自覚を持って、周りの方々とコミュニケーションを取りつつ、心身の健康と脳の活性化のために、週2日40分の運動を継続したいと願っています。

## 「厳しい冬は終わり、暖かい春が来る」

古賀 健一郎



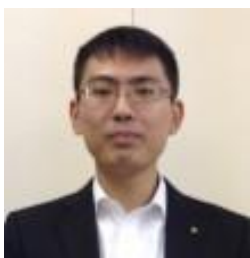
今年の干支は壬寅(みずのえ・とら)。「陽気を孕み、春の胎動を助く」、冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく新しく生まれる。辛く厳しい冬はいずれ終わり、暖かい春が来る。それが「壬寅」と言われています。昨年私は、予想だにできなかった大病を患い、今、回復の道を歩んでおります。

これまで身近でガンや病を患っておられる方のお話を聞くと、祈りをもって接するも、今思うと他人事でありました。しかし、今は違います。地獄の苦しみから生還した私は、他人の病の苦しみを自分の痛みとして受け止め、その方に寄り添う気持ちになりました。

新たな気持ちで、明るい"希望の光"を見据えて進んでいきたいと思います。

## 「ワークライフバランス」

齋藤 宙也



新年の抱負を書くのも、既に何回目だろうか。

余り目新しいことも思い付かなくなっているが、強いて言えば体のことか。

昨年夏、運転中に突然体調不良になり、続行が困難になった。

それ以来、夏の暑さが過ぎ去るまで不調が続いた(昨年11月に循環器内科に行ったが、心臓そのものは健康らしい。すると、脳なのか、呼吸器なのか...)。

結局は、疲労とか、病は気からの話なのかもしれない。

今年の7月から、ロータリークラブの方で会長をやることになっている。これまで就任している種々の役職と本業もあるの、どこまでワイズに時間を回せるか…。結局、いつも思いどおりにならないワークライフバランスを取るのが、新年の抱負ということ。

## 「やりたいことの整理整頓」

佐竹 博



総主事室蔵書を整理したいと思っています。せっせと読み進めることに夢中でしたが、この話題に関連する記事はどの本だったか、あの名フレーズをお借りしよう、と思ったときに、本やその箇所を探すのに一苦労しています。ジャンル別、著者・タイトル順、あるいは別にデータベース化するのか、など悩んでいます。何かしらルールを決めて整理しようと思っています。

他には、歩くだけでなくもう少し運動をする機会を増やしたいと思っています。畑は隼人瓜に挑戦したい、枝豆は豊作を実現したい。スマホの撮りためた写真を整理したい…。個人的なことばかりですが、たくさんある「やりたいこと」を整理整頓して確実に実行していくことが新年の豊富です。

## 「原点回帰」

田口 務



あけましておめでとうございます。世界同時パンデミックも3年目となりましたが、新しい波が来る度に急激に変化を遂げ、先の見えない状況が続きます。しかし専門家に聞くと、結局のところ、原点回帰で、3密を避ける、手

指手洗い消毒、換気の徹底、どこから、どこへウイルスが来るのか、体内に入らないようにマスク着用と着脱の際に汚染しているマスク外側の接触を避けるなどの基本の徹底に尽きるとのこと。

基本の徹底をしながら、どのように日常活動や行動範囲を広げられるかチャレンジを考えつつ、日々の当たり前前時間を大切に過ごす一年としたいと思います。新しい年も、皆様の上に主の恵みと祝福が豊かにありますようお祈りいたします。

## 「『横浜海岸教会 150年史』の発刊」

古田 和彦



2022年を迎えた。私の属する「横浜海岸教会」は1872年3月10日に9人の受洗者が生まれ、すでに洗礼を受けていた2名と共に、日本本土で日本人による最初の教会「横浜公会」を創立したことに始まる。今年創立150年となる。10年程前から、150

年史発刊を目指して資料集めをしてきたが、いよいよ、本年夏には発刊できる見込みとなってきた。当クラブブリテンにも折に触れて海岸教会歴史の一コマを紹介してきたところである。

2020年からこの作業の責任を与えられ日夜苦闘しているが、いよいよ追い込みの時を迎えている。加齢のせいであろうか、思考力の低下、やる気の低下が甚だしく気持ちは焦るが遅々として進まない日々であるが、何とかこの仕事を全うしたいと願っている。

## 第二例会報告

伊藤 誠彦

日時：12月23日(木) 17:00~18:30 (Zoom 例会)

### 1. 行事予定の確認

2月第一例会は例年の会員大会(今年はピースフォーラムとして開催)への出席と兼ねて実施する。具体的にどのようにするかは後日決定する。

### 2. 協議・確認事項

1月例会の確認、1月例会は『横浜YMCAと横浜クラブのさらなる連携強化の模索 第2弾』として卓話者として阿部正伴さん(厚木YMCA 館長及び湘南・沖縄部担当事)にお願いする。

2月以降の例会では『横浜YMCAと横浜クラブのさらなる連携強化の模索 第3弾』を計画しているが卓話者は未定。



クラブよりクリスマスプレゼントを頂いた。

3. 報告事項として古賀会長より次の2件があった。

- 1) 横浜訓盲院と日本水上学園へアンジュのクリスマスクッキー約200人分を贈呈した。
- 2) DBCの大阪長野ク

横浜ワイズメンズクラブにご支援いただいた日本語学科チーム「YOKOHAMA YMCA COLLEGE【Japanese Language】」は、総合5位とフォトコンテスト(ブリテン12月号掲載写真)に入賞いたしました。いつもお支えいただきまして本当にありがとうございます。

横浜YMCA専門学校のクリスマス礼拝が12月4日にオンラインにて実施されました。クリスマスメッセージとして、金澤正善牧師(日本キリスト教団厚木上教会)から「イエス様がお生まれだ!」を題に、夜空に光る星の導きやイエス様の誕生のお話がありました。当日の運営は、司会をはじめ奏楽など学生委員が役割を担い、コロナ禍にあっても学生同士がつながり、イエス様の誕生を祝うことができました。

12月19日に会長の古賀さんが担当される会員事業委員会を中心となって、横浜YMCAクリスマス礼拝が開催されました。日本キリスト教団紅葉坂教会よりYouTubeでのライブ配信となりました。荒井仁牧師から「星に導かれて」を題に「イエス様を見つけ、多くの人とつながり、お互いに良くなる未来を目指すために、星に導かれて一緒に歩いていきましょう」とメッセージをいただきました。礼拝に参加された紅葉坂教会の教会員の方から後日、コロナ禍にある留学生へとお米の寄付をいただきました。本当に感謝です。

新しい1年が皆様にとって良い年になりますようお祈りいたします。

### 1月例会プログラム

日時：1月13日(木) 18:30~20:15

場所：Zoom 開催

司会：古田ワイズ

1. 開会点鐘及び挨拶・・・古賀会長
2. ワイズソング・ワイズの信条・・・全員
3. 今月の聖句
4. ゲスト・ビジター紹介・・・古賀会長
5. 卓話『横浜YMCAと湘南・沖縄部(各ワイズメンズクラブ)の連携強化について』  
阿部正伴 厚木YMCA館長、湘南・沖縄部担当主事
6. ビジネス・報告・・・古賀会長
7. *Happy Birthday* 松島 紀子

例会報告：松島 美一

### 2月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
11	金	10:00	横浜YMCAピースフォーラム 兼 第一例会	Zoom
24	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom



担当主事 青木 英幸

オンラインで実施しました2021年度第24回横浜YMCA国際チャリティランの集計作業が終了いたしました。69チーム、個人エントリー19名、総勢364名の参加者が集まり、募金総額は3,740,000円となりました。

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA 青木英幸にご連絡下さい。

メール [aoki\\_hideyuki@yokohamaymca.org](mailto:aoki_hideyuki@yokohamaymca.org)

電話 045-661-0080